

(※)濃度基準値が定まっていない場合には、ACGIH等で設定されているOELのうち最小のものを利用して検討を行う。濃度基準値が定まり、当該濃度基準値が検討に用いたOELと異なる場合には採用された測定法が当該濃度基準値に対しても適用可能か検証する。														
GC (Gas Chromatograph) : ガスクロマトグラフ MS (Mass Spectrometer) : 質量分析計														
No.	CAS RN	物質名称 黄色：分析方法がGC オレンジ：分析方法がHPLC 緑：分析方法がAAS 青：分析方法がICP-AES又はICP-MS 塗りつぶし無し：分析方法が位相差顕微鏡	①測定範囲 濃度基準値(※) の1/10及び2倍 が測定範囲に 入っていれば ○、不明確なら ば△、データな しならばND	②抽出/脱着率 または回収率 値が75%以上な らば○ 75%未満ならば △ データなしなら ばND	③保存安定性 値が90%以上な らば○ 90%未満ならば △ 50%程度ならば ×データなしな らばND	④破過 ○は濃度基準値 (※)の2倍で破過 の可能性なし △は濃度基準値 (※)の2倍で破過 の可能性あり データがなけれ ばND	測定方法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評価 ○:OK(備考ありを含む) △:要確認（備考参照） P:検証や他の方法の探索が必要	総合評価の実用上の判断 ○ or P（○物質のみ表示）	備考	
1	12	75-68-3	1-クロロ-1,1-ジフルオロエタン（別名：HCFC-142b）	△	○	○	△	固体捕集－GC	活性炭 0.02～0.5 L/min 20～500 min	ジクロロメタン 10 mL	GC/MS	△	○	測定範囲は、濃度基準値の1/10～1倍（高濃度試料の場合は、希釈のうえ測定すること。）。 濃度基準値（1000ppm）、0.05 L/minで200min（10L）まで二段目への漏れはない。高濃度が想定される場合は、二段捕集にして、後段への漏れがないことを確認する。共存する妨害物質がないときはセンサーによる測定も可能。